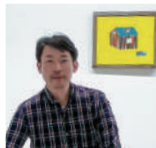


文化芸術はどこか遠くにあるのではなく、地域に生きる人々の心の中にも潜んでいます。そしてアーティストはコロナ禍にあってなお、自らが抱えた問題をあたため、見つめなおし、事物と対話し、大切なことをカタチにしようとしています。『Art@東静岡』は、静岡を拠点に精力的な活動を続けるアーティストへの新たな発表の場の提供に加え、グランシップにご来館のみならず日常的にアート作品に触れていただくことを目的とした展覧会です。館内の様々な場所に置かれた作品による、空間の愛容をお楽しみいただければ幸いです。

作家紹介
占部史人 Urabe Fumito

1984年愛知県西尾市生まれ。愛知県立芸術大学大学院博士後期程を修了。静岡大学講師。拾い集めた素材を用いて神話や考古学などを題材に、広大な時空の旅を想起させるインスタレーションを展開している。



- 2013「シャルジャ・ビエンナーレ11」Arts and Heritage Area (アラブ首長国連邦)
- 2014 個展「7つの夜の海」愛知県美術館 (愛知)
- 2018「水と土の芸術祭 2018」(新潟)
- 2020「めぐるりアート静岡 2020」(静岡)
- 2021「ガンジス河の砂の数ほどの孤独」金津創作の森美術館 (福井)

【アーティストトーク】

作家が自らの活動を語り、展示をご案内します。

日時：2022年6月18日(土) 14時～
場所：グランシップ2階 映像ホール
参加無料 ※事前申込制 (定員50名)
申込：右記QRコード グランシップHP専用申込フォーム
グランシップチケットセンター
TEL 054-289-9000 (10:00～18:30 / 休館日を除く)



アンケートも
こちらから

占部史人の『Life in the Boxes』は、一昨年の「めぐるりアート静岡」から始まりました。新型コロナウイルスによって部屋にこもりざるを得ない日々に着想したようです。自粛生活のなかで占部は、19世紀のアメリカの思想家・詩人、H.D. ソローの著作『森の生活』に向き合い、自身を見つめなおし、大切なものについて思いをめぐらせたとのこと。そしてその気持ちをカタチにするために、これまで作った作品に一つずつ箱を作り、納めてゆきました。本展示では、コロナ禍の2年間に作られた「箱」をすべて搬入。ショーウィンドウ西側にはそれら様々な箱を、東側にはその中に入っていた作品を繰り広げています。瑞々しい絵心や喜びに満ちた工作の数々。しかしそれらは単に楽しいだけでなく、消費社会の「廃品」を用い、そこに刻印された時の流れも含め作品に転生させています。それはポストコロナに向けた心の弾力なのかもしれません。

(アート@東静岡キュレーター 白井嘉尚)



《苔のむすまで (山水図屏風)》, 2022 ©UFO STUDIO



LIFE IN THE BOXES

グランシップ館内で開催中
※休館日はグランシップHP
をご確認ください。

2022年度前期展示
Art@東静岡

観覧無料

2022.4.14 (木)
-10.10 (月・祝)

Urabe Fumito
占部史人

LIFE IN THE BOXES

LIFE IN THE BOXES Vol.3

LIFE IN THE BOXES



これまでにつくり続けてきた作品をグランシップに展示します。
 コロナ禍の自宅待機からはじまった「箱の生活」シリーズもこれで第三弾となりました。そろそろコロナが終息して人々が自由に街に出られるようにという願いを込めて、作品を箱の中から出して展示します。私自身もポスト・コロナの新しい時代の表現に向かっていきたいと思っています。
 占部史人

©UFO STUDIO

LIFE IN THE BOXES Vol.3